第２学年３・４・６組　　保健体育科学習指導案

指導者　　黒川　勇瑠

１　題材　陸上競技（走り高跳び）

２　題材について

(１)　陸上競技は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことに適した題材である。第２学年では、記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方を理解し、基本的な動きや効率のよい動きを身につけることが重要である。また、動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。

(２)　本学級の生徒は、授業にはまじめに取り組む生徒が多く、ペア活動やグループ活動にも積極的に参加している。その中で、課題解決に向けて運動動作を見てアドバイスをしたり、毎時間の取り組み方を振り返ったりする力は育ちつつある。その一方で、運動が苦手で活動に意欲的に参加できない生徒もおり、二極化の傾向がある。

　(３)　以上のことを踏まえ、次の点に留意して指導したい。

　　　①　リズミカルな助走を身につけさせるために、リズム感を高めるドリルや模範となる動画を見せて実践させる。

　　　②　力強い踏み切りから高く跳び上がることを身につけさせるために、踏み切り板を使った意識作りの活動をさせる。

　　　③　正しい跳躍フォームを理解しやすくするために、タブレットを用いて動画を撮り、助走から踏み切り、空中動作の確認をさせ、修正させる。

３　学習指導目標

1. 自分に合った助走を見つけ、リズミカルな助走を身につけることができる。
2. 踏み切り板や高く跳び上がる練習を通して、力強い踏み切りができる。
3. タブレットを用いて自身の動作を確認し、課題を見つけて解決しようとすることができる。

４　学習指導計画

1. 自分に合ったリズミカルな助走を見つける・・１時間
2. リズミカルな助走から力強く踏み切る・・・・１時間
3. 一連の動作を確認しながら試技を行う・・・・４時間（本時５／６）

５　本時の学習指導

1. 目標

　　　①　タブレットを活用し、お互いの動作の課題を見つけ解決しようとすることができる。

　　　②　積極的に試技を行い、自身の記録更新に挑むことができる。

　(２)　準備物　マット、支柱、バー、ホワイトボード、タブレット、教科書

　(３)　学習指導過程　既習内容との系統性を活かした支援、話し合い活動の充実

　　　 　 　　　　　　ICT機器の効果的な活用

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容及び学習活動 | 教師の支援活動 | 評価 |
| １　準備運動、出欠確認を行う。  ２　本時の学習課題をとらえる。  ３　ペアで試技を行う。  ・　前回の試技をタブレットで見て確認する。  　・　タブレットを用いて試技を撮り合いながらペア練習する。  ４　本時のまとめをする。 | ・　活動前に、体調が優れない生徒がいないか確認をする。  ・　暑さ対策のために、適宜水分補給することや具合が悪くなった場合速やかに報告することを伝える。  自己記録を更新しよう。  ・　ペアを組み、タブレットで前回の動作を確認して本時の課題を見つけるよう助言する。  ・　試技を行う中で、何が理由で成功跳躍になったのか、何が原因で失敗跳躍になったのかを動画を見ながら検討するように助言する。  ・　本時の結果をもとに、次回の活動での課題を考えるように助言する。 | 観点（知）  A標準記録を超えている。  B前回より記録が向上している。  （観察・ワークシート）  観点（主）  A自己の課題を解決するために、ルールやマナーを守り、挑戦しようとする。  B走り高跳びの学習に意欲的に取り組もうとしている。  （観察） |